

令和6年度

学校評価書(学年末)

愛南町立御荘中学校



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その1

令和6年度学年末(12月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	%	4・3の割合					
												0	50	90			
I よりよく生きる力を育む指導の充実	①	いじめ・不登校防止	いじめ・不登校の防止や解消に向け、早期発見・早期解決できる集団づくりが実践されている。	中間期 A	◇中間期同様に回答の肯定率が生徒は9割、教職員が10割と目標値に達しているため、評定をAとした。生徒の肯定率は、中間期に続いて高い肯定率であるが、否定評価があることを真摯に受け止め、チーム学校で支援する組織づくりに引き続き努めていかなければならない。生徒指導部会を核として情報共有を行うとともに、対象に対して全教職員で組織的な対応を具体的にやっていけるよう働きかけていきたい。	生徒2-4	96	31	0	2	98						
			【目標値】 生徒・教職員の8割以上が肯定	学年末 A	◆学級担任だけで問題を抱え込んでしまうことがないよう、チーム学校として組織的な対応を意識する。そのために、素早い情報共有や対応を意識すると共に、発達支持的生徒指導に取り組んでいく。また、「学校生活アンケート」や「心と体の健康チェック」等、各種調査による実態把握や小さな変化に気づき、情報を共有できる組織づくりを行う。不登校傾向の生徒については、学校だけでなく、SC、SSW、また外部の関係機関とのスムーズな連携による対応を継続させる。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・学校生活アンケート ・教育相談による情報											
	②	楽しい学校生活	教師と生徒、生徒同士が「違いを認め合う」人間関係を構築し、楽しく学校生活を送っている。	中間期 A	◇回答の肯定率が保護者が9割を超え、生徒と教職員は10割だったため、評定をAとした。生徒については、中間期97%だったが100%の肯定率であった。2学期は大きな学校行事が多くあり、それぞれに満足感、達成感を感じることができたからであろう。これからも学校生活を通して、集団づくりを進めていくとともに、主体的に集団づくりに関わっていける生徒の育成に努めていきたい。中間期同様、気持ちのよい挨拶ができるよう全教職員で声を掛けていきたい。	生徒1-1	92	38	0	0	100						
			【目標値】 生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定	学年末 A	◆体育祭、文化祭、スパルタスロン等の大きな行事を通して、充実感や達成感を生徒が感じられたことが、学校生活の向上につながるのと同時に、生徒同士の人間関係づくりにも大きく関わっているように感じた。集団が同じ目的に向けて取り組む経験を大切にし、集団への所属感や自己有用感を味わえるよう継続して適宜声を掛けていきたい。その中で、生徒相互だけでなく、生徒と教師の人間関係・信頼関係を構築していく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・学校生活アンケート											
	③	生徒の主体性を生かす活動	生徒の主体性を生かした、生徒会活動や学校行事が実践されている。	中間期 A	◇回答の肯定率が生徒・保護者が9割を超え、教職員は10割であったため、評定をAとした。この項目についても、2学期の大きな学校行事への取組が生徒を大きく成長させたり、主体的に取り組むことができたりしたからであろう。また、生徒だけで進めるのではなく、その活動を支える教職員の動きが多くあり、それが生徒の主体性を近くで実感することにもつながったのではないかと考える。必要に応じて支えたり声を掛けたりして、生徒同士で声を掛け合える集団づくりを目指していきたい。	生徒1-12	82	40	0	2	98						
			【目標値】 生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定	学年末 A	◆2学期の学校行事を生徒の主体性を生かす活動につなげることができたのではないかと。3学期は、3年生から2年生へと代替わりになる。これまでに学んできた集団づくりに必要なことを学校生活の中でも意識して行動することができるよう適宜声を掛け、生徒の活動を教職員が支えられる体制づくりに努めていきたい。また、その取組についての評価を適切に、適宜行い、次への取組に生かしていけるようにしていきたい。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・各行事後のアンケート											

【学校運営協議会における意見・提案等】

○指標①と③は、肯定率は高いが「1」の評価もあるので細やかな配慮を継続実践していく必要がある。指標②の結果は素晴らしいと思う。○全般において目標を達成しており、継続していくことが望まれる。○いじめの早期発見や不登校の生徒が増えないように、今後も学校全体での取組や家庭との連携が必要だと思う。○主体的に取り組むことによって、満足感、充実感、達成感が感じられる。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その3

令和6年度学年末(12月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	%	4・3の割合							
												0	50	90					
Ⅲ 心の教育の推進	⑦	中 学 生 の よ い 言 動 換 拶	時と場に応じた気持ちのよい挨拶ができ、自分の意志で行動できる生徒が育っている。	中間期 A	◇生徒・保護者・教職員・地域において肯定的な評価が9割を超えているため、A評価とした。日々の学校生活に加え、生徒会役員を中心とした朝の挨拶運動や、2学期には挨拶ウィークなどの強化的な取組も実践し、生徒自身が、学校内外において挨拶をする意識が高まり、気持ちのよい挨拶ができる生徒が多く育っていると感じる。	生徒1-7	75	49	0	1	99								
			【目標値】 教職員・生徒・保護者・地域の8割以上が肯定	学年末 A	◆生徒については、肯定的な回答がほとんどだが、相手に伝わるよりよい挨拶や、時と場に応じた気持ちのよい挨拶ができるよう、生徒主体の実践的な取組を通して向上させていきたい。また、家庭や地域の中で進んで挨拶ができることを大切に、ボランティア活動や校外での学習、地域と関わる機会を挨拶実践の場と捉え、積極的に挨拶や行動のできる生徒の育成に努めていく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常の様子 ・生徒の挨拶運動の状況													
	⑧	人 権 尊 重 ・ 心 の 通 い 合 い	価値観の違いを認め合い、互いの人権を尊重した学校づくりがなされている。	中間期 A	◇生徒・保護者ともに肯定率が8割を超えているため、A評定とした。学校行事を通して、共に認め合う活動ができた。また、人権委員会と生徒会執行部によるいじめ対策委員会での情報共有や人権集会、人権作文の発表等、様々な学習の場を通して、人権意識の向上につながったと考えられる。	生徒1-11	62	60	0	2	98								
			【目標値】 生徒・保護者の8割以上が肯定	学年末 A	◇今後も、生徒理解を深めるとともに、人権学習の充実や学校行事等を通じた学級や学年での望ましい人間関係作りを大切にし、学校全体でそれぞれが認め合い、互いの人権を尊重し合える環境・雰囲気づくりに努めていく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常生活の状況 ・学校生活アンケートの結果 ・いじめ対策委員会を通じての情報													
	⑨	道 徳 教 育 の 充 実	対話を重視した道徳科の授業を通して、人間としての生き方についての考えを深めるとともに、道徳的な態度や実践意欲が育てられている。	中間期 A	◇生徒・教師ともに肯定率が中間期より上がっている。特に、生徒の評価が上がっており、道徳科の学習を通して、道徳的な態度が育まれていると生徒自身が感じている。また、各行事が道徳実践の場となり、生徒自身成長を感じられたと思われる。	生徒2-6	89	37	0	0	100								
			【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定	学年末 A	◆中間期の結果をもとにして、計画的な道徳科の学習を学期ごとに進行状況を確認、見直しを行った。また、2学期は道徳主任が地域資料、心情円盤などを活用した研究授業を行うことで研究を深めた。授業後、研究協議を行い、本校の課題を提案、改善することができた。今後も自分との関わりを通して考え、多面的・多角的な見方や考え方を共有しながら、多様性社会を生きる上で必要な資質や能力を育成するために、考え議論する道徳科の授業を進めていく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常の言動や変容													

【学校運営協議会における意見・提案等】

○肯定率は高いが、否定的な意見を持っている生徒が気になる。劣等感の塊にならないように気を付けていただきたい。また生徒が道徳に興味を持ち、深く考えることは素晴らしい。○登校時において元気で気持ちのよい挨拶ができている。今後も多様性を尊重できる生徒の育成に取り組んでほしい。○生徒会を中心に、朝の挨拶運動や人権委員会のいじめ対策委員会など、我がことと捉えて真剣にかつ継続的に活動できていることが素晴らしいと思う。○自分自身の意見をうまく表現できない子供たちがいる。このような子供たちに自己表現ができるようにする手立てが必要である。
●社会が多様化・複雑化していく中では、違いを認め共生していこうとする気持ちを高めていく教育が大切である。また、自己表現ができることも国際化が進んでいくこれからの社会で必要とされる資質であると考えられる。これらの力を身に付けさせるために、授業だけではなく生徒会行事や学校行事など全ての教育活動を通じて身に付けさせていく。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その4

令和6年度学年末(12月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	%	4・3の割合							
												0	50	90					
IV 健やかな体の育成と安全教育・防災教育の推進	⑩	体力の向上	授業や部活動を通して、運動の習慣化と体力向上が図られている。	中間期 A	◇生徒、保護者、教職員ともに9割以上が肯定しているため、評価をAとした。保健体育科の授業や運動部活動において、体力向上につながる適切な運動の機会が確保されていると考えられる。	生徒1-6	70	43	0	1	99								
			【目標値】 教職員・生徒・保護者の8割以上が肯定	学年末 A	◆運動部に所属していない生徒や運動が苦手な生徒への働き掛けや学習内容の工夫が今後の課題である。また、保健体育科の授業や運動部活動において、個に応じた指導や補強運動を継続していくことで、生徒の評価がより肯定的になっていくと考えられる。	保護者2-8	31	35	4	0	94								
						教職員7-1	8	7	0	0	100								
						〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・新体力テストの結果													
	⑪	安全・安心な学校づくり	持続可能な防災教育の充実を図り、生徒自ら安全確保のために主体的に行動する態度を育成している。	中間期 A	◇生徒、教職員ともに100%の肯定率であるため、評価をAとした。地域主体の避難訓練やシェイクアウトえひめ、防災小説の活動等、積極的な防災学習が、今回の評価につながったのではないかと考える。	生徒2-7	111	21	0	0	100								
			【目標値】 生徒・教職員の8割以上が肯定	学年末 A	◆今後も積極的な防災学習を継続していきたい。また、緊急時に即座に対応し、自助を行えるような活動をより活発にしていきたい。様々な活動を通して、どんな場面にも対応できるような防災学習や避難訓練を行ってきたい。	教職員7-2	8	7	0	0	100								
					〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・毎月の避難訓練の様子 ・防災学習														
⑫	基本的な生活習慣の定着	生徒自身による「早寝・早起き・朝ごはん」等、基本的な生活習慣が定着している。	中間期 A	◇生徒の9割が意識して生活ができていると回答しているため評価をAとした。毎日の健康観察で、朝食の摂取状況、睡眠時間、体、心の状態を入力することや生活委員会が行った「早寝早起き朝ごはん」の呼び掛けが効果的だったと考える。今後も高い意識を持続できるように支援したい。	生徒1-9	56	60	0	1	99									
		【目標値】 生徒の8割以上が肯定	学年末 A	◆心と体の健康チェックでは、朝食摂取の割合は高くなったが、ネット端末の使用、起床就寝時刻では、生活習慣が乱れている生徒もいる。生徒保健委員会による「健康を考える週間」の活動や、個別指導等を行い生活習慣の改善を図りたい。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・健康観察(毎日) ・心と体の健康チェックの結果(月1回)														

【学校運営協議会における意見・提案等】

○南海トラフ大地震の発生が懸念される中、これからの社会を生き抜く子供たちにとって、防災学習は本当に大切である。特に東日本大震災で多くの人命を奪った津波については、いくつかの避難経路を考えておく必要がある。○運動の習慣化と体力の向上が図られており素晴らしいと思う。今後も運動の機会の確保に努めてほしい。○命を守るための心づくりや体力づくりがしっかりできていると思う。

●津波の対応については、今年度屋外津波避難階段ができ、屋上への垂直避難を新たに加えた。どのような状況になるかは分からないため、様々な状況を想定した避難訓練を継続実践していく。また、保健体育科や運動部活動を通して個に応じた指導に重きを置いて取り組んでいる。早寝・早起き・朝ごはんの習慣が保護者に浸透し、基本的な生活習慣が身に付いてきた。



愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その5

令和6年度学年末(12月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	%	4・3の割合							
												0	50	90					
V 家庭や地域とともにある学校づくり	⑬	地域とつながる教育	「人」や「仕事」など、地域とのつながりを生かした教育活動に工夫して取り組んでいる。	中間期 A	◇教職員の肯定率が100%、地域の肯定率が94%と、共に9割を超えたので、評定をAとした。総合的な学習の取組として、造形の日の活動や、職場体験学習、講演会等を実施できたことが目標値の達成に繋がったと考える。今年度も、地域コーディネーターの活躍により、職場体験参加事業数や、造形の日の講座数を多く持つことができ、充実した活動となった。また、校外ボランティアに多くの生徒が参加し、地域のよさを実感しながら、生き生きと活動することができた。	教職員4-2	10	6	0	0	100								
			【目標値】 教職員・地域の8割以上が肯定	学年末 A	◇地域コーディネーターが地域と学校をつないでくれ、地域と学校が連携した活動をすることができていた。また、校外ボランティアの募集も多く、多数の生徒がボランティア活動に参加することができた。地域への興味・関心を高め、郷土愛を育むため、今後も活動を継続することが重要であると考え。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・体験学習後の生徒の感想等													
	⑭	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実が図られ、関係機関との連携を図った教育的ニーズ対応した教育が実践されている。	中間期 A	◇保護者、教職員の肯定率が8割を超えており、A評価とした。今学期も教職員、支援員が連携をし、特別支援学級の生徒を中心に、きめ細やかに対応し、安心して成長できる環境づくりに努めた。特別支援学級及び通常の学級に在籍する生徒の実態把握後、個別の指導計画の作成を行い、2学期末に評価、支援の検討を行った。	保護者2-7	19	45	6	0	91								
【目標値】 保護者・教職員の8割以上が肯定			学年末 A	◆学習指導上、特別に支援の必要な生徒に対して作成した個別の指導計画を職員全員で共通理解を図ると良い。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉														
⑮	開かれた学校づくり	保護者や地域の意見・願いを幅広く聞くとともに、学校の取組や生徒の様子を積極的に公開するなどして、学校運営協議会の協力の下、家庭・地域と連携した開かれた学校づくりに努めている。	中間期 A	◇保護者、地域の肯定率が95%を超えており、A評価とした。各種たよりや、学校ホームページを充実させることで、保護者・地域に向けた情報発信に努めることができた。特に、地域からの肯定的な意見が98%であるのは、日々の大きな成果であると考え。	保護者2-9	37	30	2	1	96									
			【目標値】 ホームページ、各種たよりの保護者の閲覧率が8割以上	学年末 A	◆今後も継続した情報公開に努め、掲載する生徒や学級にばらつきがないように配慮をしていく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・地域との連携の状況													

【学校運営協議会における意見・提案等】
 ○これからも地域とつながり、年代を問わず皆で成長していくことを願う。○ボランティア活動への参加など、地域と連携した取組ができていると思う。また、学校の様子がホームページや学級通信等で発信されていてとてもよく分かる。○生徒は地域との関わりを多く持っていると思う。教師はどうでしょう。学校行事を通じて、また住んでいる地域の中で、どれほど地域との関わりを持っているか。教師一人ひとりの地域との関わりが少ないように感じます。
 ●御指摘いただいたように、生徒はボランティア等に積極的に参加できている。教師も住んでいる地域の行事等には積極的に参加するようにしたい。ホームページは、毎日の更新ができおり、各通信も定期的に発行することができている。これらの取組を継続実践していく。